

タカラバイオ株式会社 2025年3月期 第3四半期決算補足資料

1. 2025年3月期 第3四半期業績について

【決算短信9ページ】

(売上高)

- ・ 「試薬」は、224億2,400万円となり、前期比▲1億6,900万円(▲0.8%)の減収となりました。円安による増収効果もありましたが、世界のライフサイエンス研究開発市場の回復は遅れています。
- ・ 「機器」は、6億4,400万円となり、前期比+600万円(+1.0%)の増収となりました。PCR装置がわずかに増加しました。
- ・ 「受託」は、34億9,600万円となり、前期比▲8億7,200万円(▲20.0%)の減収となりました。再生医療等製品関連受託はクライアントの開発方針の変更等による細胞加工受託の減収の影響が大きく減収となりました。遺伝子解析/検査関連受託では大型ゲノム解析関連受託やシングルセル解析関連受託の新規サービスの開始により増収となりました。
- ・ 「遺伝子医療」は、27億1,600万円となり、前期比+5億8,300万円(+27.3%)の増収となりました。遺伝子治療薬製造補助剤であるレトロネクチンの売上が増加しました。
- ・ 以上により、当第3四半期の売上高は、292億8,200万円となり、前期比▲4億5,200万円(▲1.5%)の減収となりました。

(売上総利益)

- ・ 売上総利益は、相対的に利益率が高い新型コロナウイルス検査関連試薬の減少や、売上構成の変化等による売上原価の増加により163億6,900万円、前期比▲16億7,100万円(▲9.3%)となりました。

(営業利益)

- ・ 販管費及び一般管理費は、円安の影響もあり、「管理費・その他」が増加しました。研究開発費は、プロジェクトの選択と集中により抑制に努めましたが、当第3四半期の営業利益は、前期比▲18億1,000万円、14億7,300万円の営業損失となりました。
- ・ 当第3四半期が営業損失となる見込みであることは、11月の中間期決算発表時にお知らせした通りです。

2. 通期の業績の修正と、期末配当予想について

【決算短信 10ページ・表紙】

- ・ 2025年3月期通期の連結業績予想につきましては、2024年11月8日の中間決算発表時には同年5月10日に公表した連結業績予想を変更せず、前期比で増収増益を見込んでおりました。

- ・ かししながら、欧米のインフレの長期化や中国の経済不況の影響を受け、ライフサイエンス研究開発市場の市況はさらに悪化し、製品やサービスの価格競争も激化していることから、売上高は前回予想を下回る見込みとなりました。
- ・ これに伴い、管理費等の支出の抑制に努めるものの、各利益項目についても前回予想を下回る見込みとなりましたため、2024年5月10日に公表した通期の連結業績予想を修正しました。

(1) 前期比

売上高

- ・ 「試薬」は、円安の影響もあり、前期比+6億 6,400 万円(+2.1%)増収の 320 億 7,000 万円となる予想です。
- ・ 「機器」は、前期比 2 億 8,400 万円(+31.8%)増収の 11 億 7,700 万円となる予想です。
- ・ 「受託」は、前期比5億 3,100 万円(+6.6%)増収の 85 億 2,900 万円で、再生医療等製品関連受託および遺伝子解析/検査関連受託が、それぞれ増収となる予想です。
- ・ 「遺伝子医療」は、レトロネクチン等の売上が増加し、前期比5億 1,400 万円(+16.0%)増収の 37 億 2,300 万円となる予想です。
- ・ 以上により、売上高は前期比 19 億 9,400 万円(+4.6%)増収の 455 億円となる予想です。

(営業利益)

- ・ 販売費一般管理費の削減に努めるものの、営業利益は前期比▲300 万円(▲0.1%)減益の 30 億円となる予想です。

(2) 前回(5月10日)予想比

- ・ 「試薬」は、欧米のインフレの長期化や、中国の経済不況の影響を受け市況はさらに悪化し、前回予想を▲18 億 9,800 万円(▲5.6%)下回る予想です。
- ・ 「機器」は、前回予想を3億 4,300 万円(▲22.6%)下回る予想です。
- ・ 「受託」は、前回予想を▲14 億 7,000 万円(▲14.7%)下回る予想です。再生医療等製品関連受託および遺伝子解析/検査関連受託が、それぞれ前回予想を下回る見込みです。
- ・ 「遺伝子医療」は、前回予想を+3億 1,300 万円(+9.2%)上回る予想です。
- ・ 以上により、売上高は前回予想を▲34 億円(▲7.0%)下回る、455 億円となる予想です。

(営業利益)

- ・ 販売費及び一般管理費の削減に努めるものの、売上総利益の減益の影響が大きく、営業利益は前回予想を▲20億円(▲40.0%)下回る、30億円となる予想です。

(期末配当予想)

- ・ 通期の業績予想を下方修正しましたが、期末配当につきましては、前回予想通り、1株あたり17円の配当予想を据え置きます。

3. 試薬事業の状況について

- ・ 当社の研究用試薬の売上高は、海外の構成比が高く(2024年3月期実績で海外比率約77%)、世界各国の経済状況等の影響を受けます。当第3四半期は円安の追い風もありましたが、欧米のインフレの長期化、中国の経済不況の影響、また欧州の地政学的リスクの影響等から、世界的には依然として、ライフサイエンス研究開発市場の回復は遅れ、さらに悪化しています。
- ・ 当社は各国の拠点において、グローバル戦略(グローバルで多極的なマーケティング/製造/営業戦略)を進めています。日本においては民間検査センター等へのアプリケーション検査キット、米国においてはRHT(生殖医療技術)分野などのLDT(ラボ開発検査)向けのOEM/カスタム製品、欧州においては遺伝子工学関連のOEM/カスタム製品に注力しています。中国においては中国市場向け新製品の開発や価格対応などを進めています。

(参考) 第3四半期 試薬 地域別売上高

(百万円)	25/03期 第3四半期	前期比		
		増減	うち為替レート 影響額	増減率 (為替影響除く)
日本	4,393	▲912	—	▲17.2%
米国	9,962	+652	+868	▲2.3%
欧州	2,456	▲205	+224	▲16.2%
中国	4,163	+294	+271	+0.6%
韓国	882	▲82	+44	▲13.2%
印度	565	+84	+43	+8.6%
合計	22,424	▲169	+1,453	▲7.2%

※ 2024年3月期まで「試薬」に含めていた mRNA 製造用関連製品(研究用)等の売上高を、2025年3月期より「遺伝子医療」に加えています。本表は、当該変更を反映して組み替えています。

4. 受託(CDMO)事業の状況について

- 再生医療等製品関連受託は、ベクター製造は増収でしたが、クライアントの開発方針の変更などによる細胞加工受託の減収の影響が大きく、全体でも減収となりました。
- 遺伝子解析/検査関連受託は、大型ゲノム解析関連受託やシングルセル解析関連受託等の新規サービスの開始により増収となりました。

(参考) 第3四半期 受託(CDMO)事業売上高

(百万円)	25/03期 第3四半期	前年同期比 増減	通期売上予想 に対する進捗率	25/03期 通期予想
再生医療等製品 関連受託	1,508	▲1,231	35%	4,345
遺伝子解析/検査、 その他受託	1,988	+359	48%	4,184
合計	3,496	▲872	41%	8,529

- 2025年3月期(当期)の受託事業の売上高予想の進捗は、第4四半期偏重となっています。

5. 遺伝子医療分野の状況について

- 遺伝子医療分野は、mRNA ワクチン開発用製品等の新製品の発売に加え、レトロネクチンの売上が増加したことなどから、製造補助剤(Ancillary materials)の売上が増加し、前期比5億8,300万円増収の27億1,600万円となりました。

(参考) 第3四半期 遺伝子医療分野売上高

(百万円)	25/03期 第3四半期	前年同期比 増減	うち為替レート 影響額	増減率 (為替影響除く)
遺伝子医療	2,716	+583	+205	+17.7%

※ 2024年3月期まで「試薬」に含めていた mRNA 製造用関連製品(研究用)等の売上高を、2025年3月期より「遺伝子医療」に加えています。本表は、当該変更を反映して組み替えています。

以上